

# 「質の高い問い」を生み出す中学校社会科の授業開発

## —課題探究の実践を通して—

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 言語・社会科学系（社会）

加藤 望

複雑で急速に変化する VUCA な社会を生き抜く子どもを育成するには、自分の頭で課題を見出し、「質の高い問い」を立てながらその課題を探究できる力が重要となる。本研究では、中学校社会科の単元のなかで、探究学習の第一歩となる「問いの設定」を主題に掲げ、生徒自らが「質の高い問い」を生成するための授業実践に取り組んだ。

その結果、社会的事象を捉える「視点」を明確にし、知識の構造化を促すことができれば、一部の生徒においてはより「質の高い問い」を生成できることが明らかになった。また、そこには「視点」の「量」よりも「質」が重要な要素として働いていることも示唆できた。一方で、「質の高い問い」の生成数は少数にとどまってしまい、生徒が問いを立てる前にどのような「視点」で問いを立てたらよいかを導くための手立てに課題が残った。今後も、より自由に、かつ社会的な見方・考え方にもとづいた問いが生まれる授業を実現するには、本研究のような地道な実験的研究を蓄積する必要があると提言できた。